

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

|               |                                              |       |            |
|---------------|----------------------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号         | 4070502614                                   |       |            |
| 法人名           | (株)さわやか倶楽部                                   |       |            |
| 事業所名          | グループホーム ひかり                                  |       |            |
| 所在地<br>(電話番号) | 北九州市小倉南区長野東町11番16号<br>(電 話) 093 - 474 - 6300 |       |            |
| 評価機関名         | (株)アーバン・マトリックス                               |       |            |
| 所在地           | 北九州市小倉北区紺屋町4 - 6 北九州ビル8階                     |       |            |
| 訪問調査日         | 平成21年8月29日                                   | 評価確定日 | 平成21年11月2日 |

【情報提供票より】(平成21年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

|       |                 |        |                           |
|-------|-----------------|--------|---------------------------|
| 開設年月日 | 平成 17 年 8 月 1 日 |        |                           |
| ユニット数 | 2 ユニット          | 利用定員数計 | 18 人                      |
| 職員数   | 17 人            | 常勤     | 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 2.0 人 |

(2) 建物概要

|      |                    |  |  |
|------|--------------------|--|--|
| 建物構造 | RC 造り              |  |  |
|      | 3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分 |  |  |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                  |                |       |
|---------------------|------------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額)            | 40,000 円         | その他の経費(月額)     | 実費 円  |
| 敷 金                 | (有) 200,000円) 無  |                |       |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 無 ) 円         | 有りの場合<br>償却の有無 | 無     |
| 食材料費                | 朝食               | 円              | 昼食 円  |
|                     | 夕食               | 円              | おやつ 円 |
|                     | または1日当たり 1,575 円 |                |       |

(4) 利用者の概要( 7 月 31 日現在)

|       |      |      |      |    |      |
|-------|------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性   | 5 名  | 女性 | 13 名 |
| 要介護1  | 9 名  | 要介護2 | 2 名  |    |      |
| 要介護3  | 2 名  | 要介護4 | 2 名  |    |      |
| 要介護5  | 2 名  | 要支援2 | 1 名  |    |      |
| 年齢    | 平均 歳 | 最低 歳 | 最高 歳 |    |      |

(5) 協力医療機関

|         |                |
|---------|----------------|
| 協力医療機関名 | はやし内科・胃腸科クリニック |
|---------|----------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームひかり」は、法人として複数の福祉事業やその他サービス業を展開しており、多様な資源や蓄積されたノウハウを活用しての取り組みが行われている。事業所間で研修や勉強会を開催し情報交換や親睦を深めると共に、法人所有のカラオケ店を外出時に活用したり、別府の宿泊施設に毎月2、3人の入居者が宿泊に出掛ける試みは特筆に値する。職員間のチームワークも良く「自分の親を入居させたいと思えるグループホームを作ろう」を合言葉に、入居者本位の支援に日々取り組んでいる。その姿勢は日報や経過記録等の記述に顕著である。入居者一人ひとりの状態を簡潔明瞭に記すとともに、些細なことも見逃さない気付きの記載や、具体的な提案がなされ、そこには丁寧に責任感ある確かな仕事振りがうかがえる。また入居者の服装や居室、レクリエーションの様子から、一人ひとりの思いや生活歴を尊重していることが実感出来る。事業所の玄関脇には、小さな畑がある。これは荒れ地を利用者と職員が共に耕し、一から作った畑であるという。現在では季節の野菜が育ち、それは食卓にも並び、ここに本事業所の大切にしている視点と、目指すべき方向性を感じずにはいられない。入居者と共に益々の展開が期待出来る、今後が楽しみな事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

|      |                                                                                                                                                                                                       |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)                                                                                                                                                                  |
|      | 全体的に前回の指摘事項を主体的に受け止め、真摯に取り組んでいる様子が確認出来る。改善顕著な点として、戸外に出掛けることが増加したことが挙げられる。以前、食材については注文していたが、現在では、入居者と職員と一緒に買物に出掛けている。また外出の様子を撮影し、家族に手紙とともに送付しており、家族にも好評の様子である。                                         |
| 重点項目 | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)                                                                                                                                                                           |
|      | 評価の意義を理解し、具体的な取り組みにつなげようとする意識を感じる。自己評価については管理者が職員に尋ね、多くの声を反映させて作成している。その内容は、「取り組んでいきたい内容」に関する記述が多く、自己に厳しい分析と、今後の方向性が具体的に示されている。                                                                       |
| 重点項目 | 運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)                                                                                                                                                              |
|      | 2ヶ月に1回実施。議事録より、家族代表や自治会長、地域包括センター職員が参加し、行事や活動内容等についての報告や質疑応答を行なうとともに、施設見学を実施し、開かれた事業所作りを実践していることが確認出来る。これをきっかけとし、自治会長との連携も図られ、地域住民を対象とした施設見学会の実施や、ボランティア活動、地域行事への参加、毎月の事業所業行事への参加依頼等、交流を深める試みがなされている。 |
| 重点項目 | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)                                                                                                                                                                  |
|      | 年に2回、家族会を実施し、広範な意見の収集を図っている。また入居者1人ひとりには担当職員が付き、本人や家族との馴染みの関係作りを行ない、些細なことも見逃さないように努めている。連絡や報告についても、電話や、手紙に写真を同封する等、個々に合わせた形で随時行なっている。金銭管理のについても、預かり台帳の写しを毎月、送付している。                                   |
| 重点項目 | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)                                                                                                                                                                              |
|      | 地域町作り推進協議会の会員となり、祭等の地域行事には積極的に参加している。事業所の車両に「子ども安全ステッカー」を貼り、巡回を行う等、地域に一員として主体的に活動をしている。また事業所の行事や日常的な見学についても、積極的に働きかけを行い、日頃から、地域に開かれた事業所作りを行っている。                                                      |

## 2. 評価結果(詳細)

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項 目                                                                                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |                                                                                         |                                                                                                                                                   |      |                                  |
| 1. 理念と共有              |    |                                                                                         |                                                                                                                                                   |      |                                  |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 理念については、法人全体で「慈愛の心、尊厳を守る、お客様第一主義」という統一理念を掲げている。運営方針として地域との結びつきを重視すると明示されており、実践的な取り組みがなされている。                                                      |      |                                  |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 毎朝礼時、全職員で理念の唱和を行っている。その際、管理者は、理念に関する話をし、職員間での共有、意識付けを図っている。                                                                                       |      |                                  |
| 2. 地域との支えあい           |    |                                                                                         |                                                                                                                                                   |      |                                  |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 地域まちづくり推進協議会の会員となり、祭等の地域行事には積極的に参加している。事業所の車両に「子ども安全ステッカー」を貼り、巡回を行う等、地域の一員として主体的に活動をしている。また事業所の行事や日常的な見学についても、積極的に働きかけを行い、日頃から、地域に開かれた事業所作りをしている。 |      |                                  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |                                                                                         |                                                                                                                                                   |      |                                  |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 評価の意義を理解し、具体的な取り組みにつなげようとする意識を感じる。自己評価については管理者が職員に尋ね、多くの声を反映させて作成している。その内容は、「取り組んでいきたい内容」に関する記述が多く、自己に厳しい分析と、今後の方向性が具体的に示されている。                   |      |                                  |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回実施。議事録より、家族代表や自治会長、地域包括センター職員が参加し、行事や活動内容等について報告していることが確認出来る。                                                                               |      |                                  |

## グループホーム ひかり

| 外部              | 自己 | 項 目                                                                                                                                | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                            | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 6               | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                                                             | 市主催の研修会に参加する等、連携に努めている。他の点についても、実際には、連携が図られていると思われるが、明確な形で確認出来なかった。発信力のある事業所であると思われるので、行政への働きかけや連携により、地域福祉の牽引役としての役割にも期待したい。                               |      |                                  |
| 7               | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。                                | 市主催の研修会や、法人内部の研修会に参加し、制度の理解と周知に努めている。家族には、家族会で、パンフレットを用いて説明している。実際に、現在、成年後見制度を利用している方が1人と、申請中の方が1人おり、事業所として、制度の活用に努めていることがうかがえる。                           |      |                                  |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |                                                                                                                                    |                                                                                                                                                            |      |                                  |
| 8               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                                                            | 電話や、写真を同封した手紙等、個々にあわせた報告を随時行なっている。電話では、本人とも会話してもらい喜ばれている様子。金銭管理の報告については、預かり台帳の写しを毎月、送付している。                                                                |      |                                  |
| 9               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                                              | 年に2回、家族会を実施し、広範な意見の収集を図っている。また入居者1人ひとりには担当職員がつき、本人や家族との馴染みの関係作りを行ない、些細なことも見逃さないように努めている。                                                                   |      |                                  |
| 10              | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている                               | 人員配置基準以上の職員が配置され、利用者は複数の職員と、馴染みの関係が作れるよう工夫されている。また職員の定着率を高める為に、労務管理には、特に配慮している。                                                                            |      |                                  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |                                                                                                                                    |                                                                                                                                                            |      |                                  |
| 11              | 19 | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員にても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。 | 採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。管理者は、職員の定着率を高める為、労務管理には特に配慮をし、個人的な相談しやすい雰囲気作りや、職員の提案や希望を可能な限り取り入れ実現するよう努めている。また職員へのヒアリングから、上司に相談や提案をしやすい雰囲気であることが確認出来た。 |      |                                  |

## グループホーム ひかり

| 外部                       | 自己 | 項 目                                                                                  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                                                 | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 12                       | 20 | ○人権教育・啓発活動                                                                           | 職員1人ひとりに日報があり、管理者は、毎日コメントを寄せている。その内容から、日々の業務を通して、人権教育・啓発に努めていることがうかがえる。また事業所全体では、虐待防止に特に取り組んでいる。                                                                                                                |      |                                  |
|                          |    | 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。                              |                                                                                                                                                                                                                 |      |                                  |
| 13                       | 21 | ○職員を育てる取り組み                                                                          | 毎月、法人内部での研修会や、介護福祉士を目指す勉強会が開かれ、情報交換、親睦が図られている。職員から職員への感謝メッセージを寄せる「サンクスカード」が考案され、職員間のコミュニケーションの充実に役立っており、毎月発行の社内報には、子どもが誕生した職員へのお祝いメッセージや療養中の職員への応援メッセージが寄せられており、チームワークの強化が図られている。年3回人事評価実施し、適切な総合評価が出来るよう努めている。 |      |                                  |
|                          |    | 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている             |                                                                                                                                                                                                                 |      |                                  |
| 14                       | 22 | ○同業者との交流を通じた向上                                                                       | 法人内数箇所のグループホームと連携をとり、困難事例を検討する等の勉強会を開催する他、ケアプランや環境面等で、情報交換、交流を図っている。法人内だけでなく、地域のグループホームとの交流の機会もあり、情報交換等が行われている。                                                                                                 |      |                                  |
|                          |    | 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      |                                                                                                                                                                                                                 |      |                                  |
| .安心と信頼に向けた関係づくりと支援       |    |                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                 |      |                                  |
| 2.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 |    |                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                 |      |                                  |
| 15                       | 28 | ○馴染みながらのサービス利用                                                                       | 最初に本人・家族が見学を行ない、入居者の実際の暮らしぶりを見てもらった上で、相談を受けている。また入居者と、お茶や食事を共にすることで、次第に馴染んでもらえるよう努めている。現在、体験入居の実施に向けて検討中とのこと。                                                                                                   |      |                                  |
|                          |    | 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している |                                                                                                                                                                                                                 |      |                                  |
| 2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 |    |                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                 |      |                                  |
| 16                       | 29 | ○本人と共に過ごし支えあう関係                                                                      | 「共に過ごすこと」について、根本から見つめ直し、互いにかげがえのない相手となれるような関係作りを目指している。その実践として、入居者と職員が、畑を一から耕し、一緒に野菜を育てていることが挙げられる。また他にも姿勢は、業務日誌の記録や入居者との会話、レクリエーション、日々の役割の中から確認出来る。                                                            |      |                                  |
|                          |    | 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                        |                                                                                                                                                                                                                 |      |                                  |

## グループホーム ひかり

| 外部                                    | 自己 | 項 目                                                                                                  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                 | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| <b>．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>      |    |                                                                                                      |                                                                                                                                 |      |                                  |
| 1．一人ひとりの把握                            |    |                                                                                                      |                                                                                                                                 |      |                                  |
| 17                                    | 35 | ○ 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                        | センター方式を利用したアセスメントは、生活歴や日常生活での何気ない言葉、習慣を通して、本人の思いや意向の把握に努めている。また経過記録の記述が具体的で詳しい。会話の様子がリアルに描写されており、その人の思い、その時の様子が分かりやすい。          |      |                                  |
| 2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し         |    |                                                                                                      |                                                                                                                                 |      |                                  |
| 18                                    | 38 | ○ チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している     | センター方式により、より良く暮らすための課題等を明らかにし、本人の思いを始め、家族や医師、関係者等の意見を参考に、本人本位の計画を作成している。                                                        |      |                                  |
| 19                                    | 39 | ○ 現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 本人、家族、関係者と連絡調整を行ないながら、本人の状態に合った計画の見直しを行なっている。またモニタリングは、毎月実施され、その記録は、簡潔明瞭で分かり易く、見直しの際、効果的である。丁寧な仕事ぶりがかがえる。                       |      |                                  |
| 3．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) |    |                                                                                                      |                                                                                                                                 |      |                                  |
| 20                                    | 41 | ○ 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                                   | ・本人の要望に応じ、かかりつけ医の受診を支援している。<br>・法人が有するカラオケ店を利用したり、毎月、2～3人ずつ、別府の温泉に1泊2日に出掛けている。<br>・隣接の同法人が運営する福祉施設と連携し、合同でレクリエーションやリハビリを行なっている。 |      |                                  |
| 4．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働            |    |                                                                                                      |                                                                                                                                 |      |                                  |
| 21                                    | 45 | ○ かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                      | 本人の希望するかかりつけ医を尊重するとともに、契約時、協力医療機関等についても説明を行い、納得が得られる受診支援に努めている。実際に、本人の希望や必要に応じて、かかりつけ医への受診を支援している。                              |      |                                  |

## グループホーム ひかり

| 外部                            | 自己 | 項 目                                                                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| 22                            | 49 | ○ 重度化や終末期に向けた方針の共有                                                     | 本人、家族の意向を重視し、かかりつけ医との話し合いを行いながら、対応している。基本的には、ターミナルケアを行っていない。                                                                                                                   |      |                                   |
|                               |    | 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している |                                                                                                                                                                                |      |                                   |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援       |    |                                                                        |                                                                                                                                                                                |      |                                   |
| 1. その人らしい暮らしの支援               |    |                                                                        |                                                                                                                                                                                |      |                                   |
| (1) 一人ひとりの尊重                  |    |                                                                        |                                                                                                                                                                                |      |                                   |
| 23                            | 52 | ○ プライバシーの確保の徹底                                                         | 「その人らしさ」を大切にしている。記録文書等の保管についても、配慮がなされていた。                                                                                                                                      |      |                                   |
|                               |    | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                      |                                                                                                                                                                                |      |                                   |
| 24                            | 54 | ○ 日々のその人らしい暮らし                                                         | 一人ひとりの意思を尊重した支援に努めている。それは、利用者の服装や居室の様子からも、本人の思いや習慣を大切にしていることがうかがえる。                                                                                                            |      |                                   |
|                               |    | 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している        |                                                                                                                                                                                |      |                                   |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |                                                                        |                                                                                                                                                                                |      |                                   |
| 25                            | 56 | ○ 食事を楽しむことのできる支援                                                       | 食事の準備や片付け等を「生活リハビリ」の一環と捉え、特に昼食や、おやつ時に、職員とともに入居者は出来る範囲で、役割を担っている。来訪時も、もやしの殻をとる入居者の姿が見られた。献立についても、その日の入居者の要望に応えとともに、「季節のもの、旬のものを」との意識が職員間で共有されており、ユニットごとで内容も異なる。買物も入居者と共に行なっている。 |      |                                   |
|                               |    | 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている              |                                                                                                                                                                                |      |                                   |
| 26                            | 59 | ○ 入浴を楽しむことができる支援                                                       | 基本的には、週3回、午後に実施している。シャンプー等は、好みに応じて、各自専用の物を使用している。                                                                                                                              |      |                                   |
|                               |    | 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している             |                                                                                                                                                                                |      |                                   |

## グループホーム ひかり

| 外部                            | 自己 | 項 目                                                                             | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                                                   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                   |      |                                  |
| 27                            | 61 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 役割については、「生活リハビリ」の一環として、掃除や食事、洗濯等の場面で、入居者ごとに異なる内容の役割が決まっており、日常的にこなしている。楽しみごとについては、月に2回の外食や、毎月、2、3人ずつ別府温泉へ1泊2日の旅行へ出掛けている。また日常的には、声楽を学んだ経験のある入居者が講師を務め、他の入居者と一緒に歌うレクリエーション等が実施されている。 |      |                                  |
| 28                            | 63 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 日常的に、入居者の意向を踏まえながら、散歩や買物、園芸活動等、戸外に出掛けるよう務めている。                                                                                                                                    |      |                                  |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                   |      |                                  |
| 29                            | 68 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 職員は、施錠することの弊害を理解し、鍵をかけないケアに取り組んでいる。安全の配慮から、夜間帯は施錠している。                                                                                                                            |      |                                  |
| 30                            | 73 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 定期的(2～3/年)に防災訓練を実施している。その際、消防署の立会もあり、具体的な助言を得ている。隣接する同法人運営の福祉施設との連携関係も築かれている。                                                                                                     |      |                                  |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援    |    |                                                                                 |                                                                                                                                                                                   |      |                                  |
| 31                            | 79 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている         | 献立は、入居者の要望と旬の素材を使うことを踏まえて、その日の担当職員が決めている。栄養バランスについても、隣接する福祉施設の栄養士に評価を受け、活かしている。摂取量については、毎日記録し、適切な量の確保に努めている。また食事制限等、個別対応が必要な方については、医師や家族に相談しながら、その方の状態に応じた形態での提供を行なっている。          |      |                                  |

## グループホーム ひかり

| 外部                      | 自己 | 項 目                                                                                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                           | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり |    |                                                                                         |                                                                                                           |      |                                   |
| (1)居心地のよい環境づくり          |    |                                                                                         |                                                                                                           |      |                                   |
| 32                      | 83 | ○居心地のよい共用空間づくり                                                                          | 法人内の異なる事業所で組織された「環境委員」が毎月、確認に訪れることもあって、施設内は清潔が保たれている。壁には、入居者の作品や、行事の際に写真が多く掲示されている。                       |      |                                   |
|                         |    | 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている |                                                                                                           |      |                                   |
| 33                      | 85 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮                                                                         | 各居室には、書籍やプランター等、入居者の好みや生活歴を反映したものが多く持ち込まれており、一人ひとりの意向を尊重した居室作りがなされていることが確認出来た。また大きなクローゼットも完備され、利便性に優れている。 |      |                                   |
|                         |    | 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                    |                                                                                                           |      |                                   |